

# “何もありませんが”とは 言わなくなっていくのか

～2022年「日本語のゆれに関する調査」から (2)～

メディア研究部 塩田雄大

「日本語のゆれに関する調査」の結果について報告をおこなう。さまざまな配慮表現をめぐる調査結果から、次のようなことを指摘する。

- ▶「お足元の悪いところ」「おかげさまで」「[メール冒頭で] お疲れさまです」「[会話冒頭で] お疲れさまです」に関して、全体の結果としては、全面的に支持する回答 [=「自分でも言う(書く)・おかしくない」] が過半数を占めている。それに対して、「高いところから失礼します」「つまらないものですが」「何もありませんが」のそれぞれにおける全面的な支持は半数以下であり、これ以外の選択肢にも回答が分散している。特に「何もありませんが」においては、全面的に支持する回答と、全面的に支持しない回答 [=「自分では言わない・おかしい」] が同程度になっており、現代日本において感じられ方がさまざまであるようすが見て取れる。
- ▶どちらの言い方が感じがいいか(ふさわしいか)を尋ねた設問「[遅くなって～大変お待たせして] しまい」「お越し[いただき～くださり]」「いつでも[かまいません～結構です]」「教えて[いただきたいです～いただけますか]」「ありがとうございます[ます～ました]」に関して、「[遅くなって～大変お待たせして] しまい」では「[遅くなって]のほうを感じがいい」が半数近くと比較的的回答が集中しているが、これ以外の設問ではいろいろな選択肢に回答が分散している。
- ▶[60歳以上]の集団では、「おかげさまで」「何もありませんが」「いつでも[結構です]」「ありがとうございます[ました]」への支持が相対的に多く、「[メール冒頭で] [会話冒頭で] お疲れさまです」への支持が相対的に少ない。また大卒者の集団では、「お足元の悪いところ」「おかげさまで」「[メール冒頭で] お疲れさまです」「[遅くなって] しまい」「お越し[いただき]」「教えて[いただけますか]」への支持が相対的に多い。
- ▶10年前の調査との比較から、各年代にわたって共通に見られる傾向として、「[メール冒頭で] お疲れさまです」の一般化と、「つまらないものですが」の非一般化 [=衰退] が観察される。

## はじめに

定期的実施している「日本語のゆれに関する調査」(今回は2022年3月に実施)の報告を、前号に引き続きおこなう。本号では下記のとおり「配慮表現」について取り上げる。

- 「高いところから失礼します」
- 「つまらないものですが」
- 「何もありませんが」
- 「[遅くなって～大変お待たせして] しまい 申し訳ございません」
- 「お越し[いただき～くださり] ありがとうございます ございます」
- 「いつでも[かまいません～結構です]」
- 「教えて[いただきたいです～いただけますか]」
- 「ありがとうございます[ます～ました]」
- 「お足元の悪いところ」
- 「おかげさまで」
- 「[メール冒頭で]「お疲れさまです」
- 「[会話冒頭で]「お疲れさまです」

「配慮表現」とは、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現」(山岡政紀(2010) p.143)である。本稿では、塩田雄大(2012)(2017)の延長線上として、さまざまな表現に関して尋ねた評価の結果を具体的に見てゆく。

## 1. 背景

それぞれの項目に関する関連情報を簡単に示す。

### ▶「お足元の悪いところ」

「足元が悪い」は、『新明解国語辞典』(2020年、第8版)で「雨や雪などにより歩きづらい。〔雨天での催し物などの挨拶として用いられる〕」と記されている。「お足元の悪いところ、お越しく下さりありがとうございます」は、悪天候下における移動に伴うさまざまな苦勞・損害を最大限に言語化して明示し、それを克服してまで来てくれたという気持ちを示すことで、相手に対する感謝の意を表明するものである。

### ▶「おかげさまで」

「おかげさま」は、『大辞林』(2019年、第4版)で「①「おかげ」を丁寧に言う語。「-でよくわかりました」②(「で」を伴って)特に恩恵を受けていなくても、漠然とした感謝の気持ちを表す語。ありがたいことに。多く挨拶の語として用いる。「-で無事に帰って参りました」「『御両親は御健在ですか』『はい、-で』」と記されている。①は、その事態の発生原因が一般に「聞き手」にあるものと位置づけられる(つまり、相手の好意の「おかげ」でものごとがうまくいったことを表す)のに対して、②は原因が「聞き手」以外にある場合でもこの表現が用

いられうるものであることを表している。用例の「おかげさまで無事に帰って参りました」は必ずしも相手の「おかげ」ではないし、両親が健在なのも同様である。

この②にも示されているように、この「おかげさまで」という言い方は、本来は相手の世話になっているかどうかに関係なく使える言い方である(塩田雄大(2012) p.67)。

しかし、相手に世話になっていない場合の「おかげさまで」の用法に関して、一部に、あまり好意的に感じないという人もいる。この傾向は、地域的におおむね「東高西低」の形になっていることが、高校生を対象としたアンケート結果(1,113人回答、徳川宗賢(1993))から報告されている。

また、文化庁でおこなっている「国語に関する世論調査」でも平成10年度と平成23年度の調査に取り上げられており(文化庁(1999)・文化庁文化部国語課(2012))、経年的な調査結果からは、相手に世話になった場合での「おかげさまで」についても、使用するという人が減少していることが読み取れる。

この項目は、2012年の調査でも取り上げたことがある(塩田雄大(2012))。

### ▶「お疲れさまです」

相手の(一日の)労働や苦勞をねぎらう意図での「お疲れさまです」というあいさつに関する論考および調査はこれまでも少なからずなされており、その諸例の一部は塩田雄大(2012) pp.69-70に掲げてある。また文化庁「国語に関する世論調査」においても、平成17年度と平成27年度の調査に取り上げられており、近年では「ご苦勞さま」が減少して「お疲れさま」が増加していることが示されている(文化庁(2006)・文化庁文化部国語課(2016))。

この「お疲れさま(です)」は、もともと芸能界からもたらされた可能性があることが、見坊豪紀(1979) p.20の記述に見られる。

羅聖淑(2010)では、大学生を対象に調査した結果として、「お疲れ(さまです)」という言い方が出会ったときのあいさつことばとしての地位を固めつつあることを紹介している。また久木田陽子(2014)では、大学1・2年生のころは出会い頭の「お疲れさまです」をまだあまり使わないのに、3・4年生になると使用者が多くなると記している。さらに影山佳世子(2015)では、出会う時間帯が遅くなるほど、出会い頭の「お疲れ(さまです)」の使用率が高くなることを指摘している。

今回の調査は、「お疲れさまです」の新用法として位置づけられる「その日に会うのが最初である状況」および「メール文の冒頭」での使用について尋ねた。この項目は、2012年の調査でも取り上げたことがある(塩田雄大(2012))。

#### ▶「高いところから失礼します」

高いところから物を言うのは本来は「偉い人」に許される行為であり、自分はそれに該当しないのに「高いところ」から話をしようとしていることをわびるという形で用いられる表現である。ただし一方で、スピーチの際にこのような言い方はかえって失礼である(「この場をお借りしてご挨拶申し上げます」と言えばよい)と記す立場も見られる(例えば、話題の達人倶楽部(2013) p.111)。

#### ▶「つまらないものですが」

桂文治(2001)では、江戸の商人が守るべき約束・決まりの例として、「「つまらないものですが……」と相手を立てることが必要」(p.155)と記している。このように相手に何かを贈呈す

る際に言う「つまらないものですが」は、日本的な表現であり外国語にそのまま訳しても意図が通じないと記されることが多い(塩田雄大(2012) p.68)。一方で、「日本人の中でもこういった表現をやや偽善的と感じ、好感を持たない話者がいることも知っておく必要がある」という指摘もある(竹内泰子(2012) p.42)。

山岡政紀(2019) pp.1-2では、代表的な配慮表現の例として「つまらないものですが」を挙げ、贈り物を贈る行為に関して「贈り物を受け取る側にとって決して嬉しいことばかりではないことも経験的に知っている。借りができたと感じて、そのあとに頼みごとでもされたら断れないんじゃないかと警戒することもあるし、お返しの贈り物をしなければならぬという心理的負担感を覚えることもある。これらを仮に贈り物の副作用だと考えれば、「つまらないものですが」という表現は、贈り物の主目的を果たしつつ、副作用を相手に背負わさないという副目的を言語化したものと言える。つまり、送り手が受け手側の立場や心情に先回りして副作用が起きないように配慮した表現だということである」と喝破している。

また滝浦真人(2001) p.59では「誰かに物をあげたいとき、そのことを伝える表現の選択にしばしば人が迷うのは、相手が目上であれ目下であれ、物をもらった側が“借り・負い目”を感じてしまう可能性がつねにあるからであり、通常与え手=話し手は、相手になるべくそれを感じさせない表現を選ぼうとする」と指摘されており、「つまらないものですが」を使用する根源的な背景はこうしたことにあるものと考えることができる。

文化庁「国語に関する世論調査」でも複数回にわたって調査対象となっており、平成

9・10・20・23・28年度と取り上げられてきている。経年的には、この「つまらないものですが」を使うという人は減少傾向にあるようである（文化庁（1998）（1999）（2009）・文化庁文化庁国語課（2012）（2017））。

さらに、塩川・峪口・岸江（2016）では「つまらないものですが」をめぐる面接調査（大阪市内）と全国通信調査をおこなった結果として、全国的には「つまらないものですが」の使用域の分布が近畿地方を中心とした西日本寄りになっており、東北や九州では使用率がかなり低い様相を描き出している。

この項目は、2012年の調査でも取り上げたことがある（塩田雄大（2012））。

#### ▶「何もありませんが」

この言い方は、「つまらないものですが」と同じく、物を受け取った側が負担感を覚えないように配慮したものである。幕末から明治維新の時期を舞台とした島崎藤村「夜明け前」（1932（昭和7）年に書籍化）には「吉左衛門さん、何もありませんが召し上がってくださいな。」（青空文庫から）という発話が記されており、「何もありませんが」という言い方がかなり昔から使われていたことが推察される。

英語圏では「have as many as you like」といった「寛大さ」を優先した表現が好まれるのに対して、日本語では「何もありませんが」や「つまらないものですが」「お一つどうぞ」「お口に合わないかも知れませんが」「粗茶ですが」などの謙遜表現が優先的に用いられることが指摘されている（中園篤典（2002）p.57, 井筒（成田）美津子（2009）p.11）。

#### ▶「[遅くなって～大変お待たせして] しまい 申し訳ございません」

「お待たせする」はことばとしては丁寧な言い

方なのだが、「どんな場合でも『お待たせいたしました』と言っておけばよい」というわけではない。「聞き手が期待して、待ち望んでいた状況なのかどうか」ということが、感じ方の違いに影響を与えるのである。

2015年に、次のようなアンケートをウェブ上でおこなった。結果の一部も合わせて示す。

〔ある人が上司に、あとで書類にはんこを押してほしいということを、電話で伝えた。その後、その上司のところへ直接行って〕

a 「【遅くなりました】、こちらにはんこを押していただけますか。」

b 「【お待たせいたしました】、こちらにはんこを押していただけますか。」

【遅くなりました】のほうが感じがいい 37%

【お待たせいたしました】のほうが感じがいい 57%

〔NHK放送文化研究所ウェブアンケート、2015年3月～4月実施、1,235人回答〕

このように、このアンケートでは全体としては「お待たせいたしました」を支持する回答のほうが多かった。しかし年代別に見ると、年齢が上になるほどこの2つの回答の差が小さくなり、60歳以上では「遅くなりました」の支持率のほうがわずかに上回っていた。部下の書類に「はんこを押す」のは、その上司にとっては「自分の仕事」ではあっても、「待ち望んでいたこと」ではない。このような状況では、「お待たせいたしました」ではなく「遅くなりました」と言うべきだという意識が、年齢を重ねると強くなるのかもしれない（塩田雄大（2015））。

#### ▶「お越し [いただき～くださり] ありがとう ございます」

2007年に文化審議会が答申した『敬語の指針』では、「御利用 [いただき～ください] まし

てありがとうございます」という言い方に関して、[いただき]のほうは問題があるという考え方に一定の理解を示したうえで、「しかし、「御利用いただく」は、「私はあなたが利用したことを（私の利益になることだと感じ）有り難く思う」という意味を持った敬語である。「利用する」のは相手側や第三者、「御利用いただく」のは自分側、という点がやや理解されにくい敬語であるが、自分側の立場から相手側や第三者の行為を表現した敬語であり、敬語の慣用的な用法として特に問題があるわけではない。ただ、このような「いただく」の用法に対しては、その受け止め方に個人差があり、不適切な用法だと感じている人たちもいる」と示している（文化審議会（2007）p.40）。

「お教え[いただき～くださり]ありがとうございます」に関してインターネット上でおこなったアンケートでは、全体的には[くださり]よりも[いただき]を支持する回答が多くなっていた（塩田雄大（2011））。

また野呂健一（2015）では、「いただく」の使用が全般的に広がっており、「～いただきありがとうございます」のように感謝表現とともに使われる例の増加だけでなく、「～いただきますようお願いいたします」のような依頼表現の一部をなすものとして使われるような例も広がりつつあることを指摘している。

#### ▶「いつでも[かまいません～結構です]」

「かまう」は「気にする」という意味で、これを否定する形の「かまわない」は「気にしない」「さしつかえない」ということを表す。一方「結構だ」は「とてもよい」という意味である。このように、ある意味ネガティブな「かまわない」と、ポジティブな「結構だ」とでは、どちらがより支持されているのかを今回の調査で尋ねた。

#### ▶「教えて[いただきたいです～いただけますか]」

「たい」は形容詞と同様の活用をする助動詞であるが、これを丁寧な表現にする場合、「～です」をそのまま下接すればよいのかについてはさまざまな意見がある。例えば『明鏡』（2020年、第3版）の「たい」の項には「[…たい]を丁寧に言う場合、「…たいです」がやや不適切であるため、「…たいと思います」を使うこともある。「これから現場に向かいたいと思います」という記述が見られる。ただし、相手への依頼の意で「教えていただきたいと思います」と言うと、場合によっては厚かましいような印象を与えてしまうこともあるだろう。

#### ▶「ありがとうございます[ます～ました]」

「ありがとうございました」という言い方をめぐる論考はこれまでも数多くあり、その諸例の一部は塩田雄大（2012）p.69に掲げた。この言い方は、かつてはあまりよい印象がなかったようである。例えば下記は、1941（昭和16）年7月に発行された雑誌に載せられている内容である（塩田雄大（2012）p.69から再掲）。

「佐藤（春夫）[中略]「有難うございます」と現在の形で言つて居ると感謝の意味が非常に濃いのですが、「有難うございました」と過去の形にすると現金で感情は非常に薄くなります。

大岡（保三）聴いても非常に不愉快ですね、デパートなどで買物をすると皆「ました」ですね。」

（日語文化協会（1941）p.67掲載の座談会での発言）

現代では、外国人読者を念頭に置いた本の中に、次のように両者を使い分けたほうがよいと記されているものもある。

「ありがとうございます」と「ありがとうございました」  
-あなたはこんなときどっちを使う？  
(中略)

「ありがとうございました」は、相手と自分がか  
かわったその事柄(1件)が、そこで終わった  
場合に使い、それに対して「ありがとうございます」  
は、今までのことを含め、これからも関  
係が続いていくときに使うのが一般的です。  
「このたびは」「今回の件では」「今まで3年間」  
のような表現を使ったときは、「ありがとうございました」  
を、「いつも」「日ごろは」のような表  
現を使うときには、これからも関係が続く  
ので「ありがとうございます」を使うほうがよいで  
しょう。

(岩澤みどり・寺田則子(2006) p.83)

また神永暁(2017) p.27でも、「今となって  
は使い分けをあまり厳しく考える必要はないで  
あろうが、あえて言うなら、現在の事柄につい  
ては「ありがとうございます」を、過去の事柄  
や間もなく終わることが確実な事柄については  
「ありがとうございました」を使うのが妥当と思  
われる」と記している。

この項目は、2012年の調査でも取り上げた  
ことがある(塩田雄大(2012))。

## 2. 調査結果

ここから、調査結果を記してゆく。

まず、ある特定の言い方(書き方)を使うか  
どうか、またおかしいと思うかどうかを尋ねた  
設問の一群がある。便宜上、こちらを「A群」  
と呼んでおく。ある言い回しに関して、回答者  
には(ア)～(エ)の回答選択肢を提示したも  
のである(「わからない」は提示していない)。  
一部の設問は塩田雄大(2012)で尋ねたこと  
があり、これとまったく同内容の設問・回答選  
択肢である。

### 【A群の例】

Q 相手に何かを贈呈するときに「つまらない  
ものですが」と言う場合があります。このよう  
な「つまらないものですが」について、どう思  
いますか。

「つまらないものですが」

- (ア) 自分でもこのように言うことがあるし、  
この言い方はおかしくない
- (イ) 自分でもこのように言うことはあるが、  
この言い方はおかしい
- (ウ) 自分ではこのように言うことはないが、  
この言い方はおかしくない
- (エ) 自分ではこのように言うことはないし、  
この言い方はおかしい

また、2つの言い方を示したうえで、どちら  
の言い方が感じがいいかを尋ねたものがある。  
こちらを「B群」と呼んでおく。回答者には(ア)  
～(カ)の回答選択肢を提示し、「わからない」  
は提示していない。

### 【B群の例】

Q [メールでの文として]

a 「本日は、お越しいただきありがとうございます。」

b 「本日は、お越しくださりありがとうございます。」

- (ア) aのほうが感じがいい  
(bは感じが悪い)
- (イ) bのほうが感じがいい  
(aは感じが悪い)
- (ウ) 両方とも問題ないが、どちらかとい  
えばaのほうがより感じがいい
- (エ) 両方とも問題ないが、どちらかとい  
えばbのほうがより感じがいい
- (オ) 両方とも問題ないし、どちらも  
同じくらい感じがいい
- (カ) 両方とも感じが悪い

なお「ありがとうございます～ありがとうございました」  
について取り上げた設問では、「感じ  
がいい」かどうかではなく「ふさわしい(orてい

ねい)」かどうかを尋ねたものなのであるが、回答選択肢の数が同じなので、B群に含めておく。

## 2.1 全体傾向

A群の全体の結果は図1のとおりである。

①「自分でも言う(書く)・おかしくない」の回答率の高い順に上から配列した。

「お足元の悪いところ」「おかげさまで」「[メール冒頭で]お疲れさまです」「[会話冒頭で]お疲れさまです」の4つでは①「自分でも言う・おかしくない」の回答が過半数を占めており、これが現代における一般的な回答になっているものと位置づけられる。それに対して「高いところから失礼します」「つまらないものですが」「何もありませんが」での①は半数以下であり、これ以外の選択肢にも回答が分散している。特に「何もありませんが」においては①と④「自分では言わない・おかしい」の回答が同程度になっており、見解がさまざまであるようが見て取れる。

これらの数値を「自分でも言うか」と「おかしくないかどうか」としてまとめたのが図2・3である。

図2において「つまらないものですが」での

「自分でも言う」がやや高くなっているのは、②「自分でも言う・おかしい」の数値(25%)が比較的大きいことによる。

また図3で「高いところから失礼します」について「おかしくない」の数値が高くなっているのは、③「自分では言わない・おかしくない」の数値(38%)が比較的大きいためである。

つまり、「つまらないものですが」はおかしいと思いつつも使うことがあり、一方「高いところから失礼します」はふだん使わないものの耳にしてもおかしいとは思わない、というような形になっていると言える。

次に、B群の全体結果をまとめたのが図4である。

B群のほうは、それぞれ2つの言い方のうちどちらが感じがいいか(「ありがとうごさい[a.ます～b.ました]」では、デパートの店員が買い物をした客に対して言うことばとしてどちらがふさわしいか(orていねいか))を尋ねたものである。「[a.遅くなって～b.大変お待たせして]しまい」では「aのほうが感じがいい」に回答が比較的集中しているが(45%)、これ以外の設問ではいろいろな選択肢に回答が分散している。また「ありがとうごさい[a.ます～b.ま

図1 自分でも言う(書く)か&おかしいか(全体)

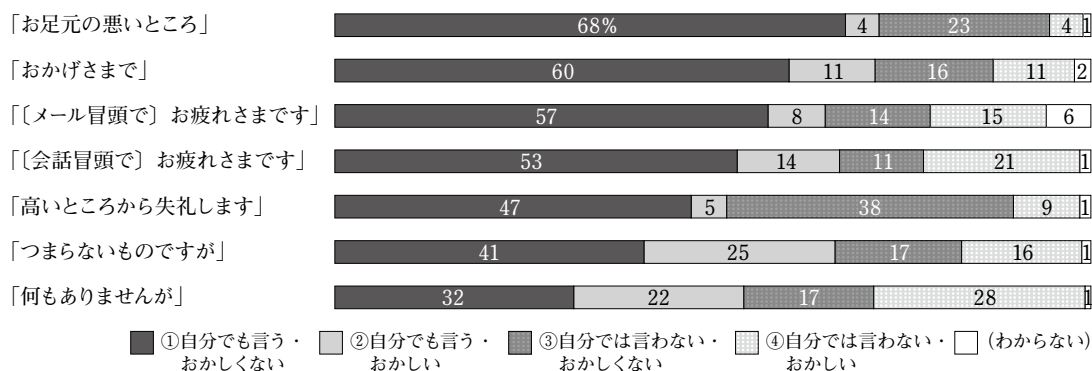


図2 自分でも言うか (全体)

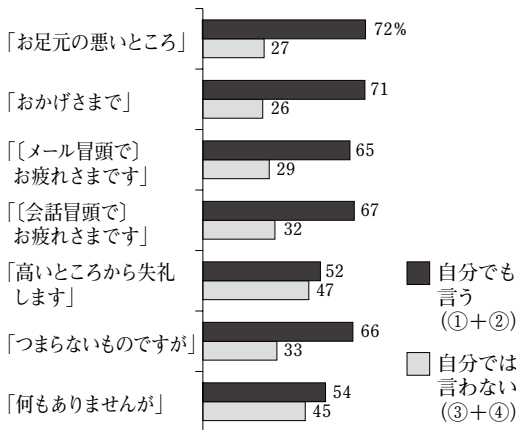


図3 おかしくないか (全体)

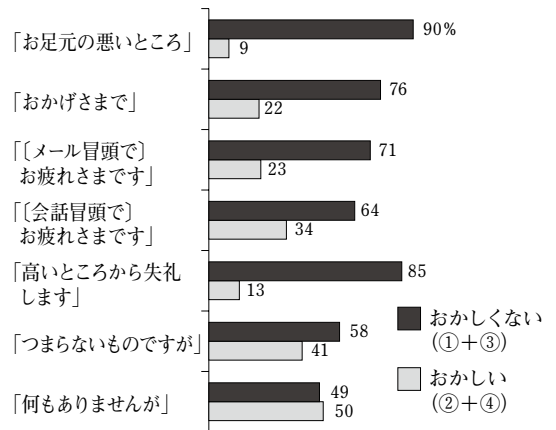
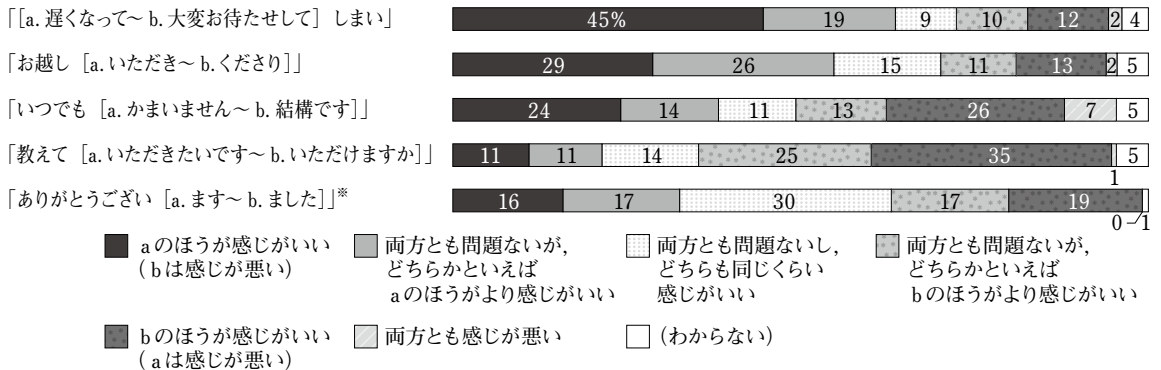


図4 どちらが感じがいいか (全体)



\* どちらがふさわしい (or ていねい) かを尋ねたもの

した]」では「両方とも問題ないし、どちらも同じくらいていねいな言い方である」という回答 (30%) が最も多くなっている。

## 2.2 属性別傾向 (年代差)

次に、A群の各項目を年代別に見てみる (図5～11)。

結果を一つずつ見ていく。

### ▶「お足元の悪いところ」 (図5)

20代では全体に比して①「自分でも言う・おかしくない」 (56%) が少なく③「自分では言わ

ない・おかしくない」 (32%) が多くなっているが、これ以外の年代では特定の傾向は見られない。

### ▶「おかげさまで」 (図6)

20代から50代にかけて、年齢が上がるに従って①「自分でも言う・おかしくない」が多くなり、③「自分では言わない・おかしくない」が少なくなるという傾向が見られる。60・70代・80歳以上では、数値としては50代ほどではないものの、①「自分でも言う・おかしくない」が優勢であるという傾向が共通して見られる。



図5 「お足元の悪いところ」(年代別)



図6 「おかげさまで」(年代別)

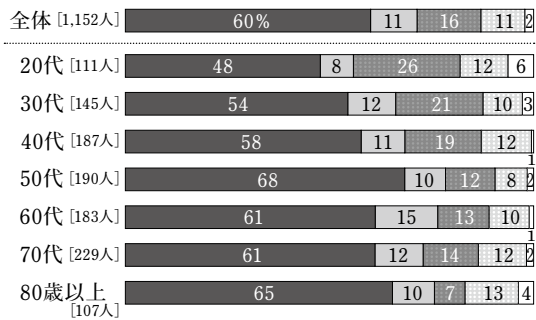


図7 「[メール冒頭で] お疲れさまです」(年代別)



図8 「[会話冒頭で] お疲れさまです」(年代別)



図9 「高いところから失礼します」(年代別)

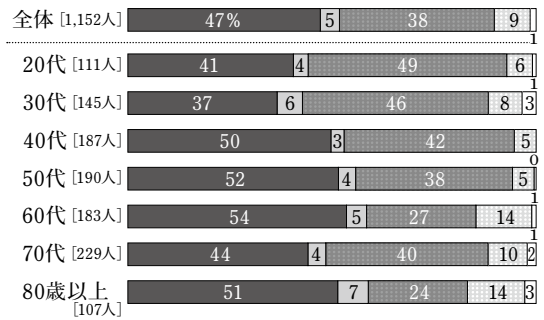


図10 「つまらないものですが」(年代別)

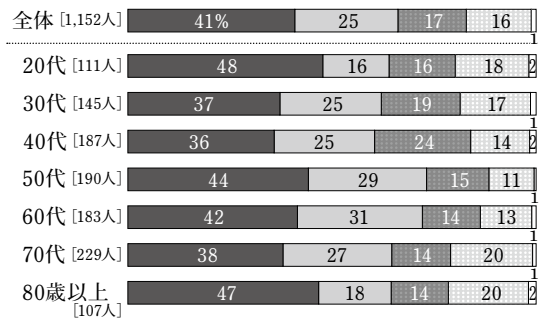
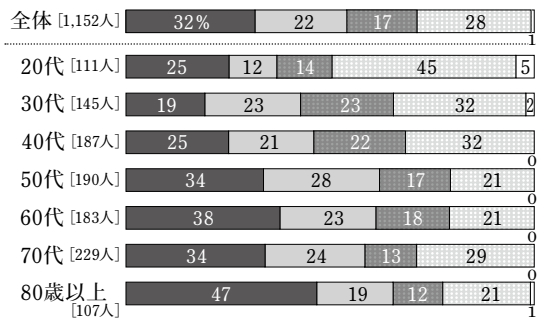


図11 「何もありませんが」(年代別)



- ①自分でも言う(書く)・おかしくない
- ②自分でも言う(書く)・おかしい
- ③自分では言わない(書かない)・おかしくない
- ④自分では言わない(書かない)・おかしい
- (わからない)

▶「〔メール冒頭で〕お疲れさまです」(図7)

全体として非常に明瞭な年代差が見られ、年代が上がるほど①「自分でも書く・おかしくない」が少なくなり、③「自分では書かない・おかしくない」および④「自分では書かない・おかしい」が多くなるという傾向が見られる。①の回答は50代までは過半数、60代ではほぼ半数であり、この年代まではメール冒頭での「お疲れさまです」はふつうの言語行動としてとらえる人が多い。しかし、70代以降ではそうではないようである。

▶「〔会話冒頭で〕お疲れさまです」(図8)

全体として比較的明瞭な年代差が見られ、30代以降では年代が上がるほど①「自分でも言う・おかしくない」が少なくなり、④「自分では言わない・おかしい」が多くなるという傾向が見られる。よく使われている一方で、40代での②「自分でも言う・おかしい」は20%と決して少なくない点も注目される。実際には体が疲れているわけではないのにこのように言うのはおかしいと思いつつも、あいさつ表現の一つとして使っているということになる。

なお、年代別の傾斜〔=年代差の激しさを示す〕は、さきほどの「〔メール冒頭で〕お疲れさまです」のほうが、急である。

▶「高いところから失礼します」(図9)

それほど明瞭ではないが、年代が上になるほど①「自分でも言う・おかしくない」が多くなり、③「自分では言わない・おかしくない」が少なくなるような傾向がある。

▶「つまらないものですが」(図10)

特筆すべき年代差は観察されない。

▶「何もありませんが」(図11)

30代以降では、年代が上がるほど①「自分でも言う・おかしくない」が多くなり、③「自分

では言わない・おかしくない」および④「自分では言わない・おかしい」が少なくなるという傾向がおおむね見られる。

以上のA群7表現に関して、年代差の観点からは、次のようにまとめることができる。

- ①「自分でも言う(書く)・おかしくない」の回答の割合に関して、
  - 年代が上がるほど多くなる  
：「おかげさまで」  
「高いところから失礼します」  
「何もありませんが」
  - 年代が上がるほど少なくなる  
：「〔メール冒頭で〕お疲れさまです」  
「〔会話冒頭で〕お疲れさまです」

次に、B群を年代別に見てみる(図12～16)。結果を一つずつ見ていく。

▶「〔a.遅くなって～b.大変お待たせして〕しまい」(図12)

80歳以上では「わからない」が多いのでいったん置いて考えると、年代が上がるほど「〔遅くなってしまい〕のほうが感じがいい」とする回答が多くなる傾向が見て取れる。

▶「お越し〔a.いただき～b.くださり〕」(図13)  
特筆すべき年代差は観察されない。

▶「いつでも〔a.かまいません～b.結構です〕」(図14)

各年代でのいちばん多い回答(最頻回答)を見てみると、20・30代では「〔かまいません〕のほうが感じがいい」であるのに対して、40代以降では「〔結構です〕のほうが感じがいい」となっている。

▶「教えて〔a.いただきたいです～b.いただけますか〕」(図15)

図12 「[a.遅くなって～b.大変お待たせて]しまい」(年代別)

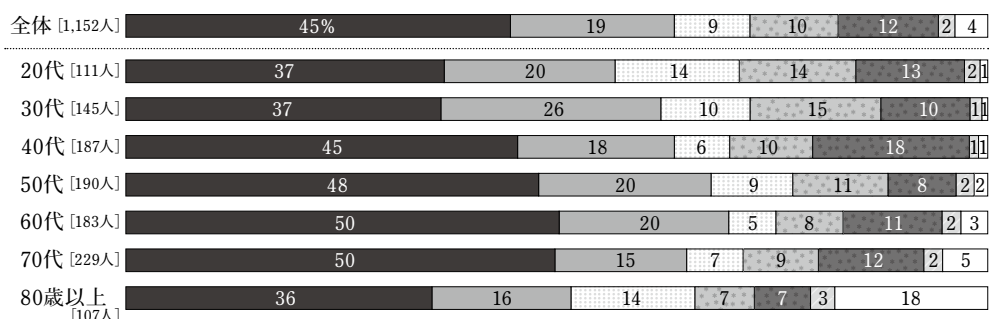


図13 「お越し [a.いただき～b.くださり]」(年代別)

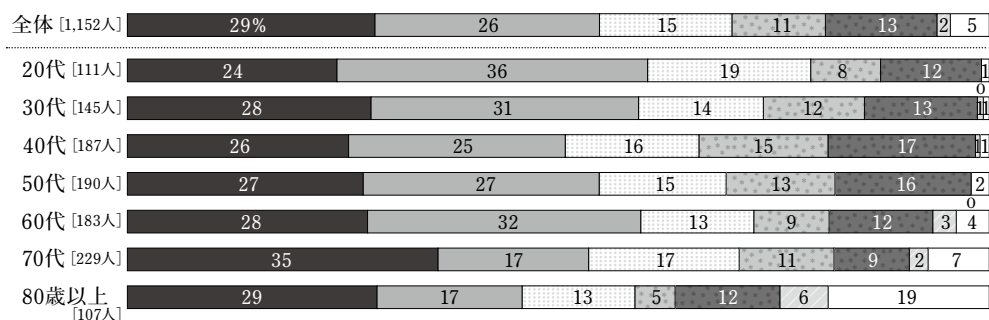
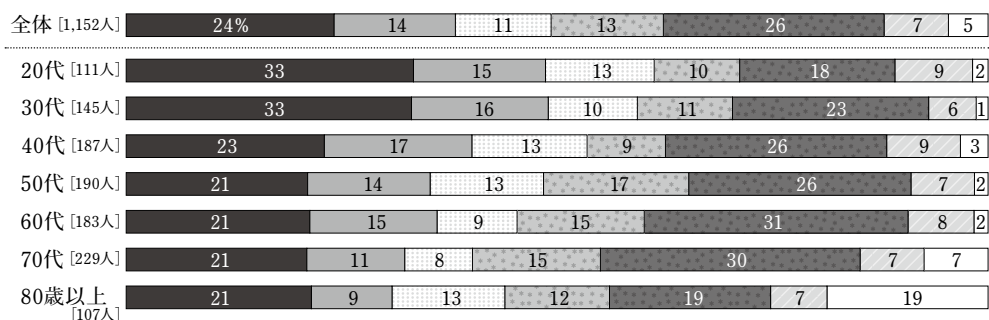


図14 「いつでも [a.かまいません～b.結構です]」(年代別)



- aのほうが感じがいい (bは感じが悪い)
- bのほうが感じがいい (aは感じが悪い)
- 両方とも問題ないが、どちらかといえばaのほうがより感じがいい
- 両方とも感じが悪い
- 両方とも問題ないし、どちらも同じくらい感じがいい
- (わからない)
- 両方とも問題ないが、どちらかといえばbのほうがより感じがいい

80歳以上では「わからない」が多く、特筆すべき年代差は観察されない。

▶「ありがとうございます[a.ます～b.ました]」  
(図16)

「ありがとうございます[ました]」を支持する回答に関して、年代が上がるほど多くなる傾向が見られる。

図15 「教えて [a. いただきたいです ~ b. いただけますか]」 (年代別)

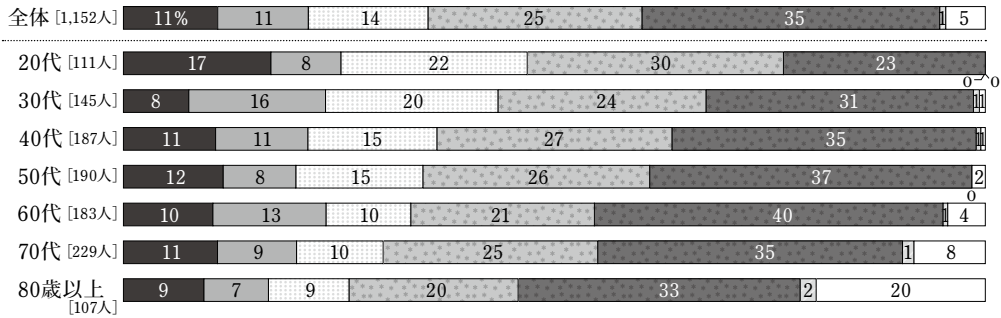
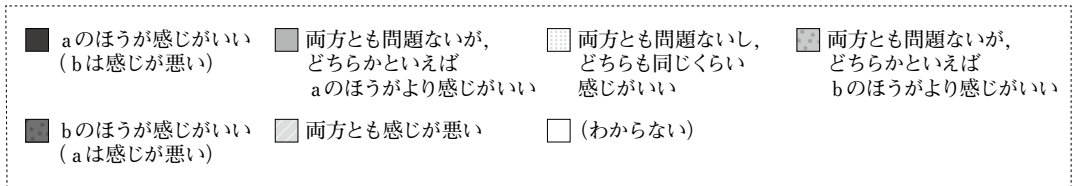
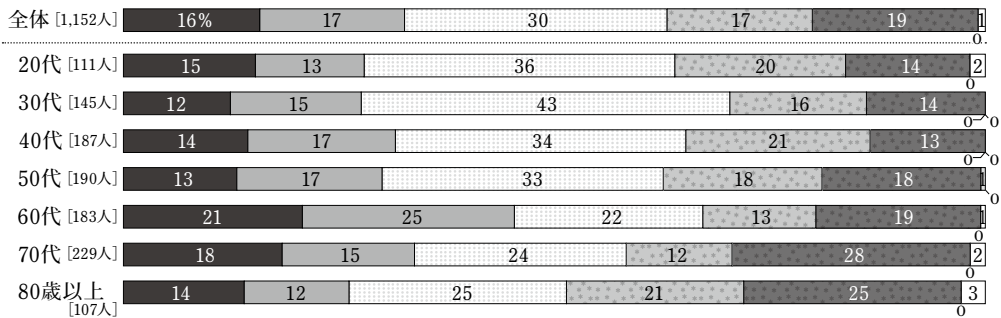


図16 「ありがとうございます [a. ます ~ b. ました]」 (年代別)



以上のB群5表現に関して、年代差の観点からは、次のようにまとめることができる。

■ 年代が上がるほど多くなる  
 : 「[遅くなってしまい]のほうがいい」  
 「[結構です]のほうがいい」  
 「ありがとうございます[ました]と言うのがふさわしい」

### 2.3 属性別傾向 (学歴差)

学歴別に見てみる。ここで言う学歴とは、最後に卒業した学校のことを指す。紙幅の関係

上、ここでは学歴差に関して有意に大きい/小さい<sup>1)</sup>と言える項目(およびその参考になる項目)についてのみ取り上げる(図17~24)。

まず、「お足元の悪いところ」「おかげさまで」「[メール冒頭で]お疲れさまです」では、大学卒において①「自分でも言う(書く)・おかしくない」の回答が相対的に多くなっている(図17・18・19)。このうち「[メール冒頭で]お疲れさまです」では学歴の違いによる結果の傾斜[中学卒37%⇒高校卒55⇒大学卒63]が非常に顕著であるが、これに対して「[会話冒

図17 「お足元の悪いところ」(学歴別)

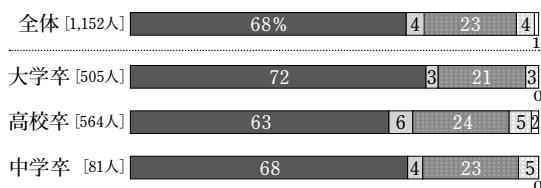


図18 「おかげさまで」(学歴別)

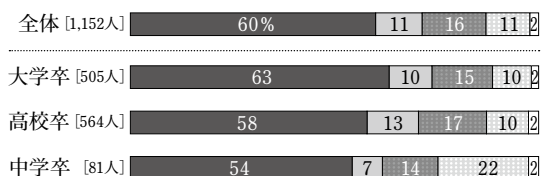
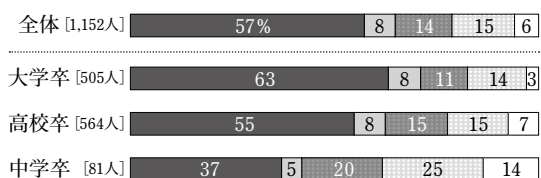


図19 「[メール冒頭で] お疲れさまです」(学歴別)



頭で] お疲れさまです」[中学卒51%⇒高校卒52⇒大学卒55]には学歴差がほとんど見られない(図20)。

「何もありませんが」では、中学卒⇒高校卒⇒大学卒となるのに従って、①「自分でも言う・おかしくない」の回答率[43%⇒33⇒29]が小さくなっている(図21)。

「[a.遅くなって～b.大変お待たせして]しまい」では、中学卒⇒高校卒⇒大学卒となるのに従って、「遅くなってしまい」のみを支持する割合[38%⇒40⇒50]が大きくなっている(図22)。

「お越し[a.いただき～b.くださり]」では、「aのほうが感じがいい」[中学卒32%⇒高校卒29⇒大学卒28]と「両方とも問題ないが、どちらかといえばaのほうがより感じがいい」[中

図20 「[会話冒頭で] お疲れさまです」(学歴別)

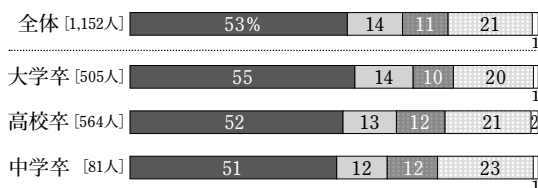
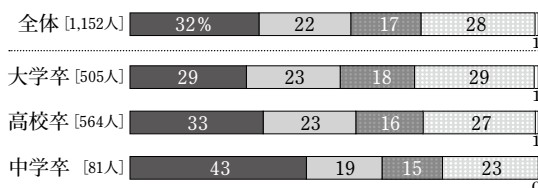


図21 「何もありませんが」(学歴別)



■ ①自分でも言う(書く)・おかしくない  
 ■ ②自分でも言う(書く)・おかしい  
 ■ ③自分では言わない(書かない)・おかしくない  
 ■ ④自分では言わない(書かない)・おかしい  
 □ (わからない)  
 ※ 学歴未詳者(2人)は省いた

学卒14%⇒高校卒24⇒大学卒31]を合わせて見てみると、中学卒⇒高校卒⇒大学卒となるのに従って「いただき」を支持する割合が大きくなっているように見えて取れる(図23)。

「教えて[a.いただきたいです～b.いただけますか]」では、中学卒⇒高校卒⇒大学卒となるのに従って「いただけますか」を支持する割合が大きくなっている(図24)。

以上に関して、学歴差の観点からは、次のようにまとめることができる。

- 大学卒に見られる傾向
  - 全体平均に比べて、支持率の割合が大きい項目：
    - 「お足元の悪いところ」
    - 「おかげさまで」

図22 「[a.遅くなって～b.大変お待たせてしま] (学歴別)

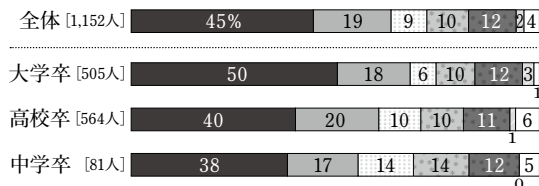


図24 「教えて [a.いただきたいです～b.いただけますか] (学歴別)

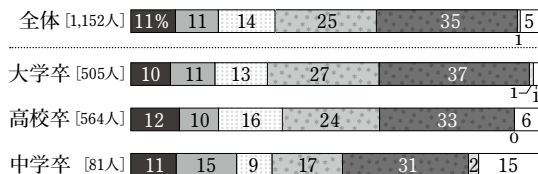
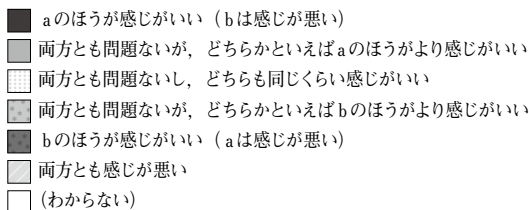
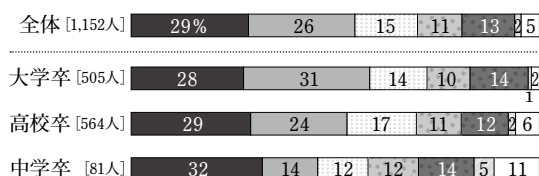


図23 「お越し [a.いただき～b.くださり] (学歴別)



「[メール冒頭で] お疲れさまです」  
 「遅くなってしまい」  
 「お越しいただき」  
 「教えていただけますか」

- 全体平均に比べて、支持率の割合が小さい項目：  
 「何もありませんが」

「[メール冒頭で] お疲れさまです」を合算した。ただし「ありがとうございます[ます～ました]」については、最頻回答「[両方とも問題ないし、どちらも同じくらい感じがいい]」のみを取り上げた。さらに、下記の数値を「年齢差指数」「学歴差指数」と仮称して掲げた。四捨五入による整数化のため、グラフ内で数字で示した値どうしの単純な差と、この指数とが、数値表示上はわずかに一致しないものもある。

## 2.4 属性別傾向 (年齢差・学歴差)

ここで、年齢差と学歴差を対照して見てみる。前号での報告と同じく、二項対立の形でわかりやすく考えるために(なおかつそれぞれの所属人数が大きく偏らないような形で)、年齢集団を「59歳以下」(633人)と「60歳以上」(519人)の2グループに集約した。また学歴に関しては「大卒」(505人)と「非大卒」(645人)の2つにまとめた。B群では、各項目での最頻回答の結果[例「[遅くなってしまい]のほうがいい」と、その回答内容に準ずるほうの「どちらかといえば」の結果[例「両方とも問題ないが、どちらかといえば[遅くなってしま

年齢差指数

$$= 59歳以下の支持率 - 60歳以上の支持率$$

学歴差指数

$$= 大卒の支持率 - 非大卒の支持率$$

結果は図25のとおりである。

このうち、顕著に差の表れている項目を取り上げて分類すると、次のようになる。

- ▶ **年齢差指数・学歴差指数がともに大きい項目**  
 ・「[メール冒頭で] お疲れさまです」①自分でも書く・おかしくない [年齢 37 学歴 11]
- ▶ **年齢差指数が大きい項目**

図25 属性別 (59歳以下と60歳以上, 大卒と非大卒)

(%)

「お足元の悪いところ」 ①自分でも言う・おかしくない		「おかげさまで」 ①自分でも言う・おかしくない		「[メール冒頭で] お疲れさまです」 ①自分でも書く・おかしくない		「[会話冒頭で] お疲れさまです」 ①自分でも言う・おかしくない	
全体 [1,152人]		全体		全体		全体	
59歳以下 [633人]	60歳以上 [519人]	59歳以下	60歳以上	59歳以下	60歳以上	59歳以下	60歳以上
 [年齢差指数 3]		 [年齢差指数 -4]		 [年齢差指数 37]		 [年齢差指数 11]	
大卒 [505人]	非大卒 [645人]	大卒	非大卒	大卒	非大卒	大卒	非大卒
 [学歴差指数 8]		 [学歴差指数 6]		 [学歴差指数 11]		 [学歴差指数 3]	
「高いところから失礼します」 ①自分でも言う・おかしくない		「つまらないのですが」 ①自分でも言う・おかしくない		「何もありませんが」 ①自分でも言う・おかしくない		「[遅くなってしまい]のほうが良い」 +「両方とも問題ないが、どちらかといえば」 「[遅くなってしまい]のほうが良い」	
全体 [1,152人]		全体		全体		全体	
59歳以下 [633人]	60歳以上 [519人]	59歳以下	60歳以上	59歳以下	60歳以上	59歳以下	60歳以上
 [年齢差指数 -3]		 [年齢差指数 0]		 [年齢差指数 -12]		 [年齢差指数 -1]	
大卒 [505人]	非大卒 [645人]	大卒	非大卒	大卒	非大卒	大卒	非大卒
 [学歴差指数 6]		 [学歴差指数 -1]		 [学歴差指数 -5]		 [学歴差指数 8]	
「[お越し]いただき」のほうが良い +「両方とも問題ないが、どちらかといえば」 「[お越し]いただき」のほう よりが良い		「[結構です]のほうが良い」 +「両方とも問題ないが、 どちらかといえば」 「[結構です]のほうよりが良い」		「[教えて]いただけますか」のほう が良い +「両方とも問題ないが、 どちらかといえば」 「[教えて]いただけますか」 のほうよりが良い		「ありがとうございます[ます~ました]は両 方とも問題ないし、どちらも同じくらい いい」	
全体 [1,152人]		全体		全体		全体	
59歳以下 [633人]	60歳以上 [519人]	59歳以下	60歳以上	59歳以下	60歳以上	59歳以下	60歳以上
 [年齢差指数 2]		 [年齢差指数 -6]		 [年齢差指数 0]		 [年齢差指数 12]	
大卒 [505人]	非大卒 [645人]	大卒	非大卒	大卒	非大卒	大卒	非大卒
 [学歴差指数 6]		 [学歴差指数 3]		 [学歴差指数 8]		 [学歴差指数 3]	

- 「[会話冒頭で]お疲れさまです」①自分でも言う・おかしくない〔年齢 11 学歴 3〕
  - 「何もありませんが」①自分でも言う・おかしくない〔年齢 -12 学歴 -5〕
  - 「[結構です]のほうを感じがいい」+「両方とも問題ないが、どちらかといえば[結構です]のほうがより感じがいい」〔年齢 -6 学歴 3〕
  - 「ありがとうございます[ます~ました]は両方とも問題ないし、どちらも同じくらいいいだ」〔年齢 12 学歴 3〕
- ▶学歴差指数が大きい項目
- 「お足元の悪いところ」①自分でも言う・おかしくない〔年齢 3 学歴 8〕
  - 「[遅くなってしまい]のほうを感じがいい」+「両方とも問題ないが、どちらかといえば[遅くなってしまい]のほうより感じがいい」〔年齢 -1 学歴 8〕
  - 「[お越し[いただき]]のほうを感じがいい」+「両方とも問題ないが、どちらかといえば[お越し[いただき]]のほうより感じがいい」〔年齢 2 学歴 6〕
  - 「[教えて[いただけますか]]のほうを感じがいい」+「両方とも問題ないが、どちらかといえば[教えて[いただけますか]]のほうより感じがいい」〔年齢 0 学歴 8〕

まず年齢差については、「[メール冒頭で]お疲れさまです」での数値の大きさが群を抜いていることがわかる。メールでのこの表現が、59歳以下の年齢集団では広く用いられている一方で、60歳以上ではそうではないという様相が推察される。

なお「遅くなってしまい」については、さきほどの10歳刻みの分析では（80歳以上の層を除

くと）年代差が観察されたが（図12）、59歳以下と60歳以上の2層にまとめた場合にはその差が表出しない。

次に学歴差については、「教えて[いただけますか]」に関しての違いが大きく表れていることが見て取れる。大学卒の集団では、この言い方に対する支持率が相対的に高い。

## 2.5 属性別傾向（地域差）

地域差について簡単に見てみる。すべての結果を示すことはここではかなわないが、回答者の数がある程度多い関東（392人）と関西（179人）についてのみ取り上げると、全体（1,152人）に比して有意に大きい/小さいと言える項目は、次のとおりである。

### ▶関東

- 「[教えて[いただけますか]]のほうを感じがいい」+「両方とも問題ないが、どちらかといえば[教えて[いただけますか]]のほうより感じがいい」〔関東 65%>全国 59%〕
- 「高いところから失礼します」④言わない・おかしい〔関東 12%>全国 9%〕
- 「高いところから失礼します」③言わない・おかしくない〔関東 34%<全国 38%〕

### ▶関西

- 「お足元の悪いところ」①自分でも言う・おかしくない〔関西 78%>全国 68%〕
- 「[結構です]のほうを感じがいい」+「両方とも問題ないが、どちらかといえば[結構です]のほうより感じがいい」〔関西 52%>全国 39%〕
- 「[かまいません]のほうを感じがいい」+「両方とも問題ないが、どちらかといえば[かまいません]のほうより感じがいい」〔関西 27%<全国 38%〕



まとめると、相対的には、関東では「教えていただけますか」への支持が高く「高いところから失礼します」への支持は低く、関西では「お足元の悪いところ」「いつでも[結構です]」への支持が高く「いつでも[かまいません]」が低い、ということになる。

### 3. 過去の調査との対照

今回取り上げた項目の一部は、2012年におこなった調査と同一である。両者の年代別の結果を対照してみる。

両調査での年代別の分布を折れ線グラフで表した(図26～30)。年代は調査実施時のものをまず示し、2012年調査での結果のほうには【 】を付した。たとえば2012年のときに「【20代】」だった年齢集団は、2022年には「30代」になっていることを示すものである。なお、今回調査での「70代」と「80歳以上」を合わせて再集計し「70歳以上」とまとめたうえで、2012年調査の「【60歳以上】」と対照するようにした。

結果を一つずつ見ていく。

#### ▶「おかげさまで」①自分でも言う・おかしくない(図26)

2012年調査と今回調査の線がおおむね重なる形になっており、10年経過しても各年代での意識の変化はあまりなかったものととらえられる。若い年代になるほど「自分でも言う・おかしくない」が少なくなるという全体構図も、そのままである。

#### ▶「[メール冒頭で]お疲れさまです」①自分でも書く・おかしくない(図27)

今回調査では、各年代において、いずれも「数値の跳ね上がり」が見られる。つまり、各

図26 「おかげさまで」  
①自分でも言う・おかしくない(2012年調査との対照)

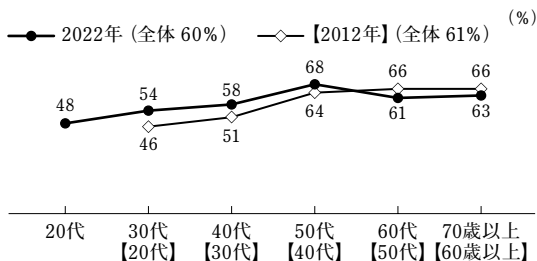


図27 「[メール冒頭で]お疲れさまです」  
①自分でも書く・おかしくない(2012年調査との対照)

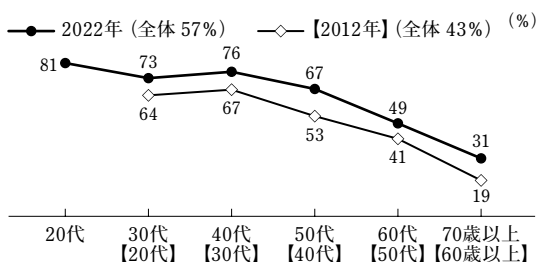


図28 「[会話冒頭で]お疲れさまです」  
①自分でも言う・おかしくない(2012年調査との対照)

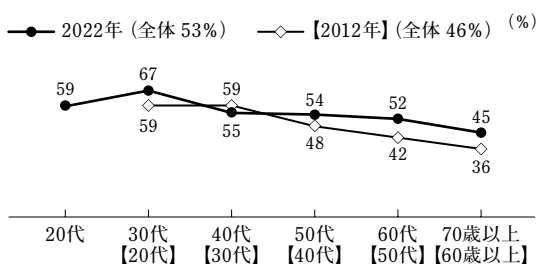


図29 「つまらないものですが」  
①自分でも言う・おかしくない(2012年調査との対照)

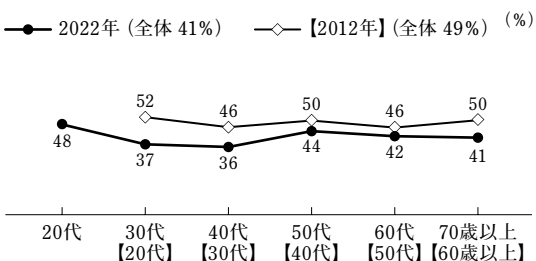
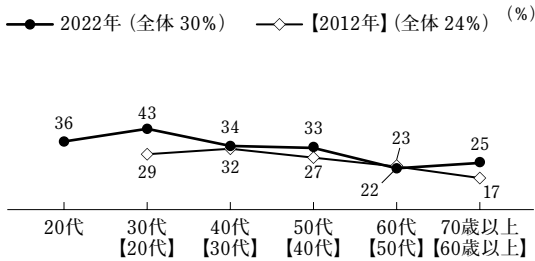


図30 「ありがとうございます[ます～ました]は  
どちらも同じくらいいていいだ」(2012年調査との対照)



年代において、メール冒頭での「お疲れさまです」使用の一般化が進んだものと解釈される。

▶「[会話冒頭で] お疲れさまです」①自分でも言う・おかしくない(図28)

今回調査での40代を除くと、各年代において、いずれも「数値の跳ね上がり」が見られる。全般的に、会話冒頭での「お疲れさまです」の一般化が進んだものと解釈される。

▶「つまらないものですが」①自分でも言う・おかしくない(図29)

今回調査では、各年代において、いずれも「数値の減少」が見られる。つまり、各年代において、「つまらないものですが」の非一般化〔=衰退〕が進んだものと解釈される。

▶「ありがとうございます[ます～ました]はどちらも同じくらいいていいだ」(図30)

2012年調査と今回調査の線がおおむね重なる形になっているが、今回調査での30代のみ「数値の跳ね上がり」が見られる。

以上から、2012年調査と今回調査との比較において各年代にわたって共通に見られる傾向として、「[メール冒頭で] お疲れさまです」の一般化と、「つまらないものですが」の非一般化〔=衰退〕を指摘することができる。

## 4. まとめにかえて

各項目の結果に観察された属性差をまとめると、次のようになる。

### 【それぞれの言い方に対する支持が相対的に多い層】

- ・「お足元の悪いところ」  
大卒 関西
- ・「おかげさまで」  
60歳以上 大卒
- ・「[メール冒頭で] お疲れさまです」  
59歳以下 大卒  
※経年的に、全年代にわたって支持率上昇
- ・「[会話冒頭で] お疲れさまです」  
59歳以下
- ・「つまらないものですが」(特定の属性差なし)  
※経年的に、全年代にわたって支持率減少
- ・「何もありませんが」  
60歳以上
- ・「遅くなってしまい」  
大卒
- ・「お越し[いただき]」  
大卒
- ・「結構です」  
60歳以上 関西
- ・「教えて[いただけますか]」  
大卒 関東
- ・「ありがとうございます[ました]」  
60歳以上

最後に一つだけ申し添えると、「つまらないものですが」「何もありませんが」などのように「自分から相手に提供するものを、あえて低めて言語化する」ような言い回しは日本的な表現であるとされてきたが、こうしたものがそれほど好まれなくなりつつあるようすが、調査結果から見て取れた。山岡政紀(2018)では、この両表現とも、配慮表現の一例として「他者の利益が小さいと述べよ」というものの実例として

挙げられている。「粗餐そさんでございますが(お召し上がりください)」などもこの分類に該当するだろう。こうした一群の表現の使用が、日本語では衰退の方向にあるのかもしれない。

今後とも調査を通じて、日本語の現況動態の把握を引き続き進めてゆく。

(しおだ たけひろ)

## 注:

- 1) 「ある層と残りの層との互いに独立なパーセントの差の検定」(杉山明子編著(2011) pp.138-146)によった。

## 引用文献:

- ・井筒(成田)美津子(2009)「「他者の中の自己」と「個としての自己」—自己観から見るポライトネス表現比較—」『文化と言語 札幌大学外国語学部紀要』70
- ・岩澤みどり・寺田則子(2006)『日本企業への就職ビジネス会話トレーニング』アスク出版
- ・影山佳世子(2015)「回避される〈こんにちは〉と選択される〈お疲れさま〉—母語話者の現状と日本語教育での扱いについて—」『日本語研究』35(首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会)
- ・桂文治(2001)『十代文治 嘶家のかたち』うなぎ書房
- ・神永暁(2017)『さらに悩ましい国語辞典 一辞書編集者を惑わす日本語の不思議!—』時事通信出版局
- ・久木田陽子(2014)「出会い頭の「お疲れ〜」「お疲れ様」について ~アンケート調査を用いての使用区分~」『山口国文』37(山口大学人文学部国語国文学会)
- ・見坊豪紀(1979)『ことばのくずかご』筑摩書房
- ・塩川奈々美・峪口有香子・岸江信介(2016)「贈答場面における配慮表現—「つまらないものですが」の使用をめぐって—」『言語文化研究』24(徳島大学総合科学部)
- ・塩田雄大(2011)「「教えてくださり?」「教えていただき?」最近気になる放送用語」[\[https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/146.html\]](https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/146.html)
- ・塩田雄大(2012)「現代人の言語行動における“配慮表現”~「言語行動に関する調査」から~」『放送研究と調査』62-7
- ・塩田雄大(2015)「「遅くなりました?」「お待たせいたしました?」最近気になる放送用語」[\[https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/20151201\\_3.html\]](https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/20151201_3.html)
- ・塩田雄大(2017)「“この論文、わりにはいいかもしれませんね”~2016年「日本語のゆれに関する調査」から② 配慮表現~」『放送研究と調査』67-8
- ・杉山明子編著(2011)『社会調査の基本』朝倉書店
- ・滝浦真人(2001)「敬語の論理と授受の論理—「聞き手中心性」と「話し手中心性」を軸として」『言語』30-5
- ・竹内泰子(2012)「B1レベルの「社会言語的な適切さ」について—文体・レジスター・丁寧さ—」『CEFR B1 言語活動・能力を考えるプロジェクト 2011年度活動報告書」[\[http://japanologie.arts.kuleuven.be/bestanden/B%201%20project.pdf\]](http://japanologie.arts.kuleuven.be/bestanden/B%201%20project.pdf)
- ・徳川宗賢(1993)「ことばづかいの風土性」『方言地理学の展開(ひつじ研究叢書 言語編 第1巻)』ひつじ書房
- ・中園篤典(2002)「言語学における言語用法の位置づけ」『広島修大論集(人文編)』42-2
- ・日語文化協会(1941)『日本語』1-4
- ・野呂健一(2015)「「いただく」を用いた依頼表現の使用実態」『キャリア研究センター紀要・年報』1
- ・文化審議会(2007)『敬語の指針」[\[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/keigo\\_tosin.pdf\]](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/keigo_tosin.pdf)
- ・文化庁(1998)『平成9年度 国語に関する世論調査』大蔵省印刷局
- ・文化庁(1999)『平成10年度 国語に関する世論調査』大蔵省印刷局
- ・文化庁(2006)『平成17年度 国語に関する世論調査 日本人の敬語意識』国立印刷局
- ・文化庁(2009)『平成20年度 国語に関する世論調査 情報化時代の言語生活』ぎょうせい
- ・文化庁文化部国語課(2012)『平成23年度 国語に関する世論調査』(世論調査報告書)
- ・文化庁文化部国語課(2016)『平成27年度 国語に関する世論調査』(世論調査報告書)
- ・文化庁文化部国語課(2017)『平成28年度 国語に関する世論調査』(世論調査報告書)
- ・山岡政紀(2010)「第7章 配慮表現とは何か」『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門』明治書院
- ・山岡政紀(2018)「日本語配慮表現の分類と語彙リストについて」『日本語コミュニケーション論集』7
- ・山岡政紀(2019)「序章 配慮表現とは何か」『日本語配慮表現の原理と諸相』くろしお出版
- ・羅聖淑(2010)「「お疲れさまです」をめぐって—日韓大学生の挨拶言葉の対比より—」『日本語研究の12章』明治書院
- ・話題の達人倶楽部編(2013)『この一冊で面白いほど身につく! 大人の国語力大全』青春出版社